

はにい

授業を問う（1）

平成25年1月28日

3回シリーズです

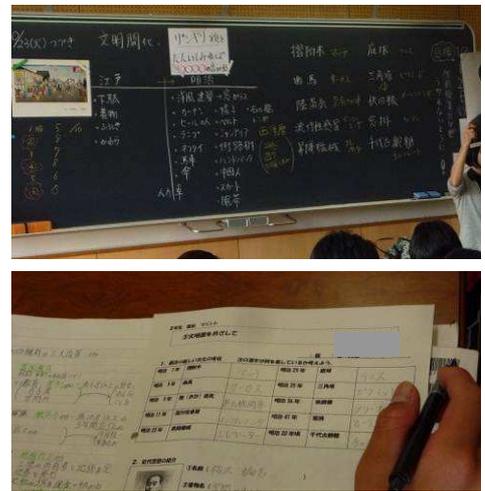
指導主事の勉強会の一コマ。授業参観メモをもとに3人で対話しています。※指導主事名は仮名

（授業参観メモ 鈴木）

○ 社会（2年2組）

板書がきれい。子どものノートもきれい。教師の板書が子どものノートに影響しているのかもしれない。

教材がユニーク。プリントを見るだけで、その内容に引き込まれてしまう。内容から、教師が日頃から教材研究にとりくみ、教科の内容を教師が楽しんでいるということが伝わる。



佐藤：この「板書がきれい」というのは、「字がきれい」とか「整ってる」という意味ですか。

鈴木：そうです。まず、教室に入って目に入ったんです。子ども達のノートの字も丁寧だったので、きれいな板書に影響しているのかな、と感じました。

田中：佐藤指導主事は、この板書をどう思われたんですか？

佐藤：写真を見る限り、教師が学びの流れや内容を決めてしまっているような板書かな、と感じたんですけど。どうでしたか。

鈴木：授業は10分くらいしか見てないのですが、板書の最初の方に、子どもたちの発言が並べてあったので、子どもたちの考えや意見を大事にしているように受け取りました。

佐藤：田中指導主事は、このメモのどこに注目しましたか。

田中：「教材がユニーク」とってどういうことかと思ったんですけど。

鈴木：ああ、それは、子どもたちのノートに貼られている毎時間のプリントを見たんです。「摺附木（マッチ）」とか「千代古齡糖（チョコレート）」「曲馬（サーカス）」など、子どもが興味を持ちそうな題材が穴埋め式にまとめてあったんです。

田中：そうですか。しかし、佐藤指導主事の感じたこととつながるんですけど、一つの見方として、教師の問いに子どもが答えていくだけ、という授業になってないでしょうか。

鈴木：一問一答式の授業というやつですね。穴埋めプリントだとそうなりがちです。しかし、それにしても、プリントの内容がおもしろかったです。

佐藤：なるほど。教師が日頃から教材を探しているのですね。

専用メールアドレス： inochi4027@pref.kanagawa.jp